【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】令和6年2月7日(2024.2.7)

【国際公開番号】WO2023/167052
【出願番号】特願2023-544075(P2023-544075)
【国際特許分類】
H01M 8/0284(2016.01)
H01M 8/0276(2016.01)
H01M 8/10(2016.01)
H01M 8/028(2016.01)
H01M 8/0273(2016.01)
C09J 7/38(2018.01)
C09J175/04(2006.01)
C09J 11/08(2006.01)
C09J 7/35(2018.01)
C09J 11/06(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｍ 8/0284
Ｈ０１Ｍ 8/0276
Ｈ０１Ｍ 8/10 １０１
Ｈ０１Ｍ 8/028
Ｈ０１Ｍ 8/0273
Ｃ０９Ｊ 7/38
Ｃ０９Ｊ175/04
Ｃ０９Ｊ 11/08
Ｃ０９Ｊ 7/35
Ｃ０９Ｊ 11/06

【手続補正書】
【提出日】令和5年7月20日(2023.7.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
燃料電池の固体高分子電解質膜の両側に電極を配設した電解質膜・電極構造体の周囲のシールに用いられる熱硬化型接着シートであって、
反応性官能基を有するポリウレタン系樹脂と、架橋剤とを含有する接着剤組成物の硬化物から形成された接着剤層を有し、
前記接着剤層のゲル分率が６０質量％以上であり、
１００℃における貯蔵弾性率（Ｇ’$_{100}$）が５．０×１０^{4}Ｐａ以上１．０×１０^{8}Ｐａ以下であり、
１００℃における貯蔵弾性率（Ｇ’$_{100}$）に対する、１２０℃における貯蔵弾性率（Ｇ’$_{120}$）の低下率が、０．５以下であることを特徴とする、熱硬化型接着シート。
【請求項２】
前記接着剤層のガラス転移温度が－１０℃以上１００℃以下であることを特徴とする、請求項１に記載の熱硬化型接着シート。

【請求項３】
前記接着剤層のガラス転移温度が５０℃以上であることを特徴とする、請求項２に記載の熱硬化型接着シート。
【請求項４】
前記反応性官能基がカルボキシ基を含み、前記架橋剤が多官能エポキシ架橋剤を含有することを特徴とする、請求項１から３のいずれか１項に記載の熱硬化型接着シート。
【請求項５】
前記ポリウレタン系樹脂のカルボキシ基のモル量（ａ）と前記エポキシ系架橋剤のエポキシ基のモル量（ｂ）との比（ｂ／ａ）が、１．０以上１０．０以下であることを特徴とする、請求項４に記載の熱硬化型接着シート。
【請求項６】
前記接着剤層は、基材フィルムの一方の面上に形成されており、
前記基材フィルムは、ポリアリレート、ポリエチレンテレフタレート、ポリエチレンナフタレート、ポリアミド、ポリイミド、ポリフェニレンサルファイド、ポリサルフォン、ポリエーテルサルフォン、ポリエーテルエーテルケトン、ポリアリレートからなる群より選ばれる少なくとも一種の樹脂材料から構成されるフィルムであることを特徴とする、請求項１に記載の熱硬化型接着シート。
【請求項７】
前記熱硬化型接着シートはさらに、前記基材フィルムが設けられたのとは反対側の前記接着剤層の面に、第二の基材フィルムを有し、
前記第二の基材フィルムは、ポリアリレート、ポリエチレンテレフタレート、ポリエチレンナフタレート、ポリアミド、ポリイミド、ポリフェニレンサルファイド、ポリサルフォン、ポリエーテルサルフォン、ポリエーテルエーテルケトン、ポリアリレートからなる群より選ばれる少なくとも一種の樹脂材料から構成されるフィルムであることを特徴とする、請求項６に記載の熱硬化型接着シート。
【請求項８】
請求項６または７に記載の熱硬化型接着シートを含む、燃料電池用のサブガスケット。